

埼玉退教だより

2015年度

第2号

発行者 沖松 信夫

発行日

2015年10月30日

編集責任者 高橋 勇

戦争準備より老後不安をなくせ

埼玉退職教職員協議会会長 沖松 信夫

安倍内閣は7月、衆議院で安保関連法案を強行採決し可決させました。憲法学者や有識者、国民の反対を無視した強引なやり方でした。

首相は、参議院審議向け、「理解がすすむよう努力を重ねていきたい」と述べましたが、2ヶ月約92時間の参議院審議を経ても、法案反対の声は一向に収まりませんでした。今度は、「法案が成立し、時間が経ていく中で問題なく理解が広がっていく」と開き直り、9月19日未明の参議院本会議で可決成立させました。戦争に傾斜していく安倍内閣に対する国民の不安は高まるばかりです。安保関連法案審議の最中が募集期間だったのだが、自衛官希望者が2割減少したと新聞は報道しています。立憲主義と民主主義を踏みにじる安保関連法の「可決成立」は、首相がアメリカ議会での約束を果たそうとした物と言われても仕方ないでしょう。

安倍内閣は、来年の参院選に向けて、安保かくしのために、アベノミクス第2弾「一億総活躍社会」を目指すそうです。アベノミクスは、円安と株高によって大企業や富裕層は潤った一方で、国民生活は悪化し続けています。年金の送金案内書を見ると、差し引かていれる介護保険料、後期高齢者医療保険料、所得税・住民税の多額なのに驚きます。30年前は、こんなことは一切ありませんでした。

特別養護老人ホームの待機者は、全国で52万人以上と言われてます。団塊世代が75歳以上になる2025年以降は、高齢者施設が不足するのは必至です。国民の老後は不安でいっぱいです。今後は当然のことながら、防衛費は増額されます。反対に国民生活は苦しくなります。

安倍内閣は、原発事故の後始末もせず、原発再稼働、あわよくば原発輸出、大っぴらな武器輸出と平和と国民生活を犠牲にして経済第一主義に走っています。早く、政治を主権者の手に取り戻さねばなりません。



8月27日に埼玉囲碁大会を開催

全国退職教職員生きがい支援協会（財団法人）主催の全国・関東ブロック囲碁大会予選の「埼玉囲碁大会」を熊谷市中央公民館を会場に8月27日に開催しました。当日は、10時集合で、沖松会長のあいさつ後に熱戦が展開されました。昼食を挟んで真剣勝負が続き、15時近くに終了しました。その後、関東ブロック大会に参加する埼玉退教代表の選出協議が行われ、成績を基準に鈴木容二さんと権田哲雄さんがBクラスさん、今井和男さんと古谷仁さんがCクラスに出場することになりました。

「関東ブロック囲碁大会」に参加して

児玉支部 今井 和男

10月9日（金）「東京都教職員互助会・ナーベルお茶の水2階」で関東ブロック囲碁大会が開催された。9：00集合で開会式の後、9：30から対局開始であった。大会は3ブロックに別れ、Aブロックは6段以上、Bブロックは2段から5段、Cブロックは初段以下である。そして各ブロックから上位2名が全国大会（日本棋院会場）に参加する。各ブロック参加者は関東・甲信越・静岡等より県代表が集まり16名であった。それがABCの3ブロックで計48名、これに審判員3名が加わり、総勢51名が小さな部屋に集まったので大変な熱戦になった。対局は、1試合1時間30分で、午前1試合、午後2試合の計3試合であった。

さて、私がこの大会に参加したのは今回で2度目である。ブロックはCブロック、1回目は全敗でそれも大差であったと思う。今回は2年ぶりに同じCブロックに参加して1勝2敗であった。第1試合の相手は4級で、黒2子置きで白から6目込み出しであった。初対面の相手で実力が解らないので、硬く硬く打ち回していくうちに段々と相手の力が解ってきた感じである。そして、終局を迎えて計算したら、2目差で勝利した。審判の人があいさつで「対局は楽しんで下さい。できれば5目差くらいが楽しいです。」と言っていたがなるほどと思った。続いて第2戦、相手は2級で白から6目込みだしであった。終盤まで接戦であったが、ヨセで間違えて3目を取られ6目を損して、終局し5目差で負け。ヨセやツメの大切さを感じた一局であった。第3戦は、同じ初級同士で握りになった。私は白番であった。お互いに序盤の布石を重視して囲い重視の戦いとなったが、踏み込みが足りず、最後の整地で12目差、込み入れて5目半に負けであった。しかし、2年前よりも力がついてきたと感じた戦いであった。退職して6年、これからも趣味の囲碁を楽しんで行きたいと思った一日でした。

地公三単産・地公退高齢者集会に参加して

入間支部 上田 典男

地公三単産とは、自治労・日教組・全水道の各現職組合を指します。集会は、現職の組合員、三単産のOBで日本教育会館の大ホールが殆ど満席の状況で開かれました。開会行事で、三単産代表の全水道委員長永井さん、地公退会長西澤さんのあいさつがありました。安倍政権を倒し、戦争法案を廃案に、議会制民主主義を守り、平和憲法を堅持しつつ、国民一人ひとりが、老いも若きも安心して暮らせる社会を構築しよう。また持続可能な脱原発社会を目指した粘り強い運動を進めよう。さらに沖縄辺野古基地建設に反対、オスプレイの撤去等々を内容とした日教組社会保障部長渡辺さんの基調報告がありました。民主党副代表の神本美恵子さん社民党党首の吉田忠智さんから連帯のあいさつもありました。

その後、京都精華大学講師の白井聡さんの記念講演に移りました。「戦後史と平和を考える」というテーマでした。最後まで聞きたいと思っていたのですが、途中で失礼することになり残念でした。ロビーに先生の著作がありましたので、「永続敗戦論」という漫画解説付きの一冊を購入してきました。

戦後70年、戦争の総括はしっかりできたのか、戦争直後の複雑な国際状況の中で、特にアメリカの思惑中心に動いてきた。そのことは今も昔もあまり変わっていないように私自身も思いました。首相に返り咲いて、60年安保強行採決した岸信介首相もしかり、時を経て、集団的自衛権を憲法9条を無視して閣議決定し、戦争法案を強行採決した安倍晋三首相しかりです。集団的自衛権も辺野古基地建設も、TPPもそんなにアメリカ政府の方ばかりに良い顔をむけて、私達国民の生活が犠牲になったら大変だと思います。

生き生きと安心して暮らせる社会をつくろう

全国高齢者集会報告 石川 博

標記のようなメインスローガンで、今年も全国高齢者集会が9月15日に日比谷公会堂で開催されました。主催者は日本退職者連合で、連合の共催、全労済など3団体の協賛という形で毎年行われているものです。来賓として民主党の長妻代表代行と社民党の吉田党首のあいさつがありました。

基調報告としては、私たち高齢者にとって最も大切な、年金・医療・介護などの社会保障制度をとりまく現状確認と、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会にするために、来年の参議院議員選挙で政治の流れを変えるためにがんばろうという提案がありました。また、地域からの報告として、東日本大震災被災地から気仙沼の現状のレポートと社会貢献活動の取り組みとして大道芸「筑波山がまの油売り口上」の実演が行われ会場を沸かせました。

集会のオープニングでは民謡おどり、第2部としては韓国伝統音楽「サムルノリ」がにぎやかに披露されました。

今年の集会では「集会アピール」のほかに、安全保障関連法案に反対し、廃案を求める請願など3つの国会請願が採択され、デモ行進も銀座から東京駅へという例年のコースではなく、国会請願ということで国会の衆参議員面会所に向かって行われました。

なお、1960年の秋に浅沼稻次郎社会党委員長（当時）が凶刃に斃れたこの日比谷公会堂は、近いうちに取り壊されることになっているそうです。

日退教・第6次沖縄連帯行動参加者報告

「沖縄行きの記録」

埼玉支部 大西 孝治

1日目（8月29日）

羽田より那覇へ。首里城周辺を歩く。

2日目（8月30日）

南部戦跡へ。ひめゆり平和祈念資料館での映像資料は、ゆっくり時間をかけて是非。夕刻、与儀公園で集会。2500人参加。

3日目（8月31日）

他県退教の方と共に辺野古へ。どうみても普天間移設ではなく、新たな米軍新基地建設としか思えない。それも広大な。

4日目（9月1日）

普天間基地と嘉手納基地へ。フェンス沿いに歩く。オスプレイ10数機。タッチアンドゴーを繰り返す戦闘機。沖縄国際大学には、墜落跡のモニュメント。

5日目（9月2日）

琉球大学と返還された米軍用地に建つ県立博物館へ。那覇の琉球新報の「新聞博物館」は一見の価値あり。

6日目（9月3日）

帰宅。

辺野古とガマ

一日退教・第六次沖縄連帯行動一

児玉支部 丸山道雄

9月27日～29日の3日間、超大型台風が沖縄諸島接近という予報の中を、私は“青年部”の仲間とともに、辺野古座り込み行動に向かった。奇跡と思われるほど台風は、大きく左旋回し先島・石垣島方向に逸れ、わがジャンボ機は、なんなく那覇空港に着陸した。相棒の柏葉さんは、「晴れ男」だった。

初日は、二人で南風原文化センターと陸軍病院（ガマ①）、旧海軍司令部壕など戦跡めぐりを行い、早朝のウチナンチュウとの座り込み闘争に心の準備です。

翌日28日、本来なら翁長知事による辺野古沿岸部埋め立て承認取り消し表明とともに、緊張した現地闘争になるはずでした。機動隊とのにらみあい、ごぼう抜きも想定されました。数日前、街宣車で乗り付けた右翼の一団がテント破壊を行ったとの報道は、安倍政権による「戦争法案」強行に乗じた反対運動つぶしに違いありません。抗議したい気持ちに駆られます。

風速70メートル大暴風の襲来を想定して、テント前座り込み行動は中止となりました。そのため、われわれ日退教派遣団は、これまで五次にわたる沖縄連帯行動と同じ基地めぐりを行った。辺野古テント村では、日焼けした沖縄現地の仲間と京都府退教の人たちと合流、およそ50人ほどでミニ集会を行う。沖縄退教の方が発信する辺野古の情勢を共有し、「辺野古新基地建設阻止！」「戦争する国づくり反対！」のシュプレヒコールを連呼しました。

基地めぐりとして、キャンプ・シュワブ・嘉数の高台公園（米軍上陸の激戦